

## ■細江英公 (ほそえ えいこう / 写真家) 略歴

1933年、山形県米沢市に生まれ、東京で育つ。

1951年、富士フォトコンテスト・学生の部最高賞受賞をきっかけに写真家を目指す。1956年「東京のアメリカ娘」で初個展。1959年、東松照明、奈良原一高、川田喜久治らとともに写真家によるセルフ・エージェンシー「VIVO」を結成、戦後写真の転換期における中心的な存在となる。エロスと肉体というテーマを正面から取り上げた『おとこと女』(1961年)、三島由紀夫を被写体にバロック的な耽美空間を構築した『薔薇刑』(1963年)、また舞踏家・土方巽を被写体に東北地方の霊気と狂気の幻想世界を創出した『鎌鼬』(1969年)など、特異な被写体との関係性から紡ぎ出された物語性の高い作品を次々と発表した。海外でも数多くの展覧会が開催される一方で、国内外でワークショップをはじめとする写真教育やパブリック・コレクションの形成等、社会的な活動にも力を注いだ。

<海外での受賞> 2003年「生涯にわたり写真芸術に多大な貢献をした写真家」として、英国王立写真協会より創立150周年記念特別勲章を受章。2007年、写真界のアカデミー賞といわれるルーシー・アワード(米)のビジョナリー賞を日本人として初受賞。2010年にはナショナル・アーツ・クラブ(米)より、写真部門の生涯にわたる業績賞を日本人で初めて受賞。

<国内での受賞> 2007年、旭日小綬章、2008年、毎日芸術賞を受賞。2010年、文化功労者として顕彰された。2017年、旭日重光章を受章。東京工芸大学名誉教授。1995年より清里フォトアートミュージアム館長。